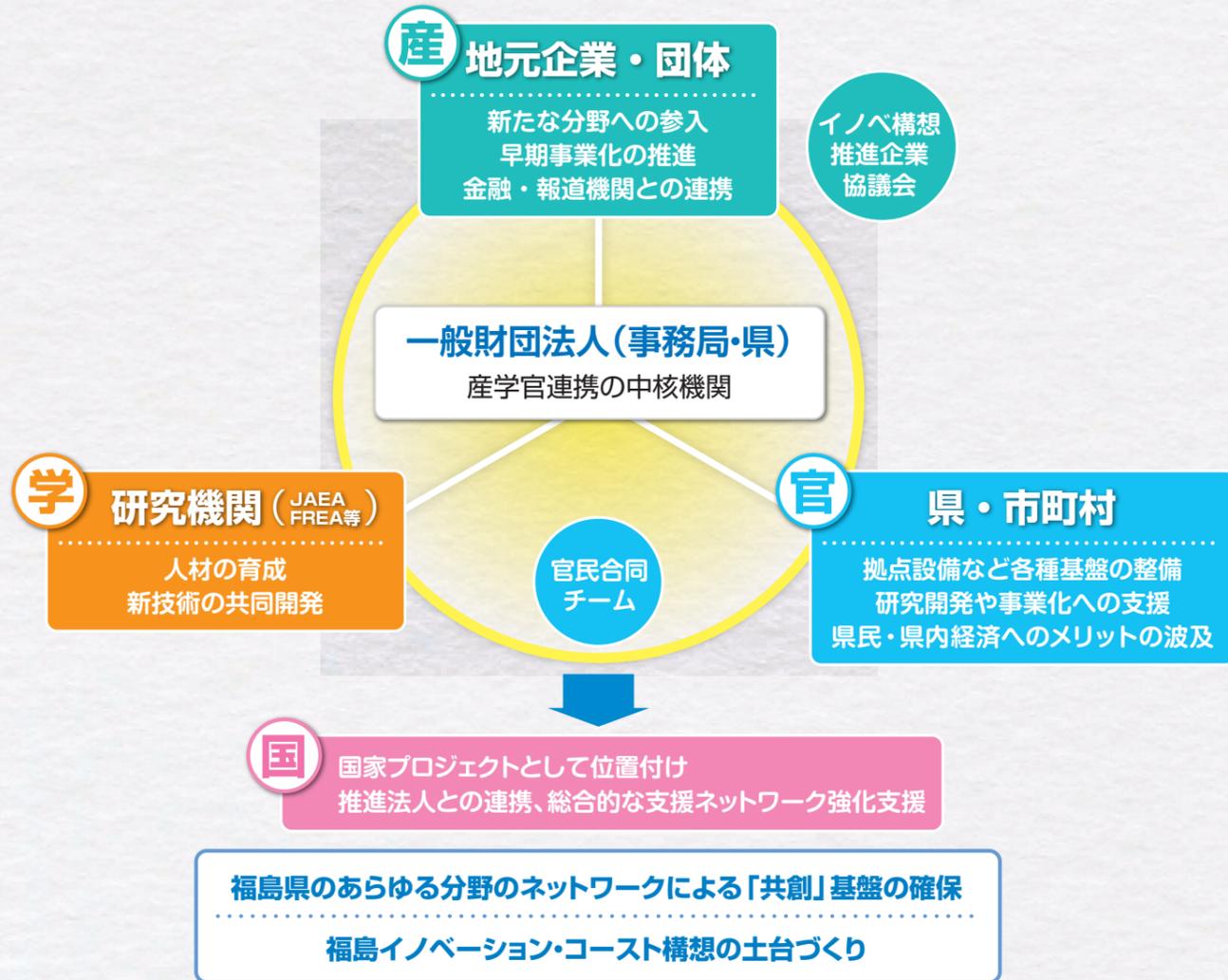


# 地元産学官の連携体制

関係する産学官の様々な主体間の連携推進等、中核的な機能を担う推進法人を設立し、福島イノベーション・コースト構想を推進していきます。



# 福島・国際研究産業都市 構想

イノベーション・コースト

## プロジェクトガイド



新幹線	JR線	高速道路	私鉄
<b>&lt;車の場合&gt;</b>			
東京から	南相馬市 約3時間50分 いわき市 約3時間10分 田村市 約3時間35分	福島市から	南相馬市 約1時間20分 いわき市 約1時間40分 田村市 約1時間
仙台市から	南相馬市 約1時間15分 いわき市 約2時間30分 田村市 約2時間	福島空港から	南相馬市 約1時間55分 いわき市 約1時間 田村市 約55分
郡山市から	南相馬市 約1時間45分 いわき市 約1時間20分 田村市 約35分		

※所要時間は目安です

### 福島・国際研究産業都市(イノベーション・コースト)構想の経過(政府閣議決定等)

- 平成26年6月 「福島・国際研究産業都市(イノベーション・コースト)構想研究会」報告書とりまとめ
- 平成26年6月 「経済財政運営と改革の基本方針2014(骨太の方針)」閣議決定(構想を明記)
- 平成27年6月 「科学技術イノベーション戦略2015」閣議決定(構想を明記)
- 平成28年3月 ロボットテストフィールド等整備予算化
- 平成28年4月 格葉遠隔技術開発センター全面運用開始
- 平成29年5月 「福島復興再生特別措置法の一部を改正する法律」公布、施行(構想の法定化)

# イノベーション・コースト 福島・国際研究産業都市構想 ~世界が注目する浜通りの再生~

## 福島イノベーション・コースト構想とは？

東日本大震災及び原発事故によって失われた浜通り地域等の産業基盤の再構築を目指し、廃炉やロボット技術に関する研究開発拠点の整備を始め、再生可能エネルギーや次世代エネルギー技術の積極導入、先端技術を活用した農林水産業の再生、さらには、未来を担う人材の育成、研究者や来訪者に向けた生活環境の確保や必要なインフラなど様々な環境整備を進める国家プロジェクト。  
2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催時に、世界中の人々が、浜通りの力強い再生の姿に注目する地域再生に向け、各プロジェクトの具体化を進めることにより、浜通り地域等の復興とともに、地域再生のモデルとなることを目指します。

## 福島イノベーション・コースト構想の実現に向けた重点的取組



- ① 情報発信（アーカイブ）拠点（双葉町）
- ② 小高産業技術高等学校（南相馬市）
- ③ ふたば未来学園高等学校（広野町）
- ④ 福島工業高等専門学校（いわき市）
- ⑤ テクノアカデミー浜（南相馬市）

**国際産学連携  
人材育成**  
産・学・官の連携  
を促進

**スマート・  
エコパーク**  
リサイクルによる  
産業集積

**廃炉研究**  
廃炉・放射性物質に  
関する研究

廃炉国際共同研究センター  
国際共同研究棟（富岡町）

- ① 廃炉国際共同研究センター  
国際共同研究棟（富岡町）
- ② 大熊分析・研究センター（大熊町）
- ③ 櫛葉遠隔技術開発センター（櫛葉町）



**ロボット**  
ロボットによる  
新たな産業集積

- ① ロボットテストフィールド（南相馬市）
- ② 国際産学官共同利用施設（ロボット）  
（南相馬市）
- ③ ロボットテストフィールド（浪江町）

**エネルギー**  
再生可能エネルギー等  
での産業集積

- ① 浮体式洋上ウインドファーム実証研究  
（双葉郡沖）
- ② 阿武隈山地風力発電エリア
- ③ 沿岸部風力発電エリア
- ④ 高効率石炭火力発電（IGCC）  
（いわき市、広野町）
- ⑤ 天然ガス（LNG）火力発電（新地町）
- ⑥ スマートコミュニティ  
（新地町、相馬市、浪江町、櫛葉町）
- ⑦ 藻類バイオマス・エネルギー大規模実証施設  
（南相馬市）

**農林水産**  
プロセスイノベーション  
により営農再開を支援

- ① 水稲超省力・大規模生産プロジェクト
  - ② 畑作物大規模生産プロジェクト
  - ③ 環境制御型施設園芸構築プロジェクト
  - ④ フラワー・コースト創造プロジェクト
  - ⑤ 阿武隈高原畜産クラスタープロジェクト
  - ⑥ 県産材の新たな需要創出  
プロジェクト
  - ⑦ 水産研究拠点整備プロジェクト
  - ⑧ 作業支援プロジェクト
- ※⑥と⑧は浜通り地域等全域



# 廃炉研究

日本原子力研究開発機構（JAEA）は、東京電力ホールディングス福島第一原子力発電所の廃止措置に伴う、原子炉からの燃料デブリの取り出しや、発生する放射性廃棄物の処理・処分等に必要な技術開発を行う研究拠点を整備しています。これらの施設は、国内外の英知を結集し、廃止措置の推進を第一として、科学技術の向上、安全基盤の強化及び地域との共生を行うことを目的としています。研究開発とその成果を福島から発信することにより、施設利用の促進につなげ、魅力のある国際的研究開発拠点を確立し、地域産業の活性化に貢献します。

## 楢葉遠隔技術開発センター（楢葉町）

楢葉遠隔技術開発センターは、廃炉作業等に必要な遠隔操作機器・装置（ロボット等）に関する技術基盤を確立するための実証試験や要素試験を行う施設です。また、廃炉の研究だけでなく、様々なロボットの開発に活用できるように整備しており、どなたでも施設を利用することができます。

※東京電力ホールディングス福島第一原子力発電所の廃止措置の推進に資する研究開発及び人材育成の促進等の観点から、高等教育機関及び中小企業を対象に利用料金の一部を免除する特別措置を設けております。



### ■技術開発の一例（ロボットシミュレータ）



ロボットの設計・検証やロボットの操縦訓練を効率的に行うためのシステムを開発しています。

(左) ロボットが階段を走行する実機試験の様子  
(右) シミュレーションによる再現

### ■主な試験設備



ロボット試験用水槽

モックアップ階段

モーションキャプチャ

バーチャルリアリティシステム

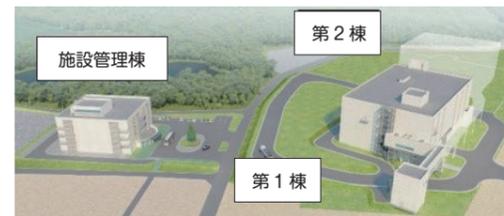
楢葉遠隔技術開発センターホームページ <http://naraha.jaea.go.jp>  
※随時利用募集中。

福島第一原子力発電所の原子炉建屋内（模擬空間）を自由に移動でき、そこに居るような感覚を体験できます。移動経路や移動速度を設定するとともに、移動情報の記録・再生ができます。

## 大熊分析・研究センター（大熊町）

運用開始予定：平成29年度（施設管理棟）

大熊分析・研究センターは、廃止措置等に向けた放射性廃棄物の処理・処分のため、放射性廃棄物の性状の分析・評価や保管中の安全性の評価などに関する技術開発を行う施設です。平成29年度内の施設管理棟の運用開始を目指し、大熊町の東京電力ホールディングス福島第一原子力発電所隣接に整備を開始しました。



### ■施設管理棟（建設中）

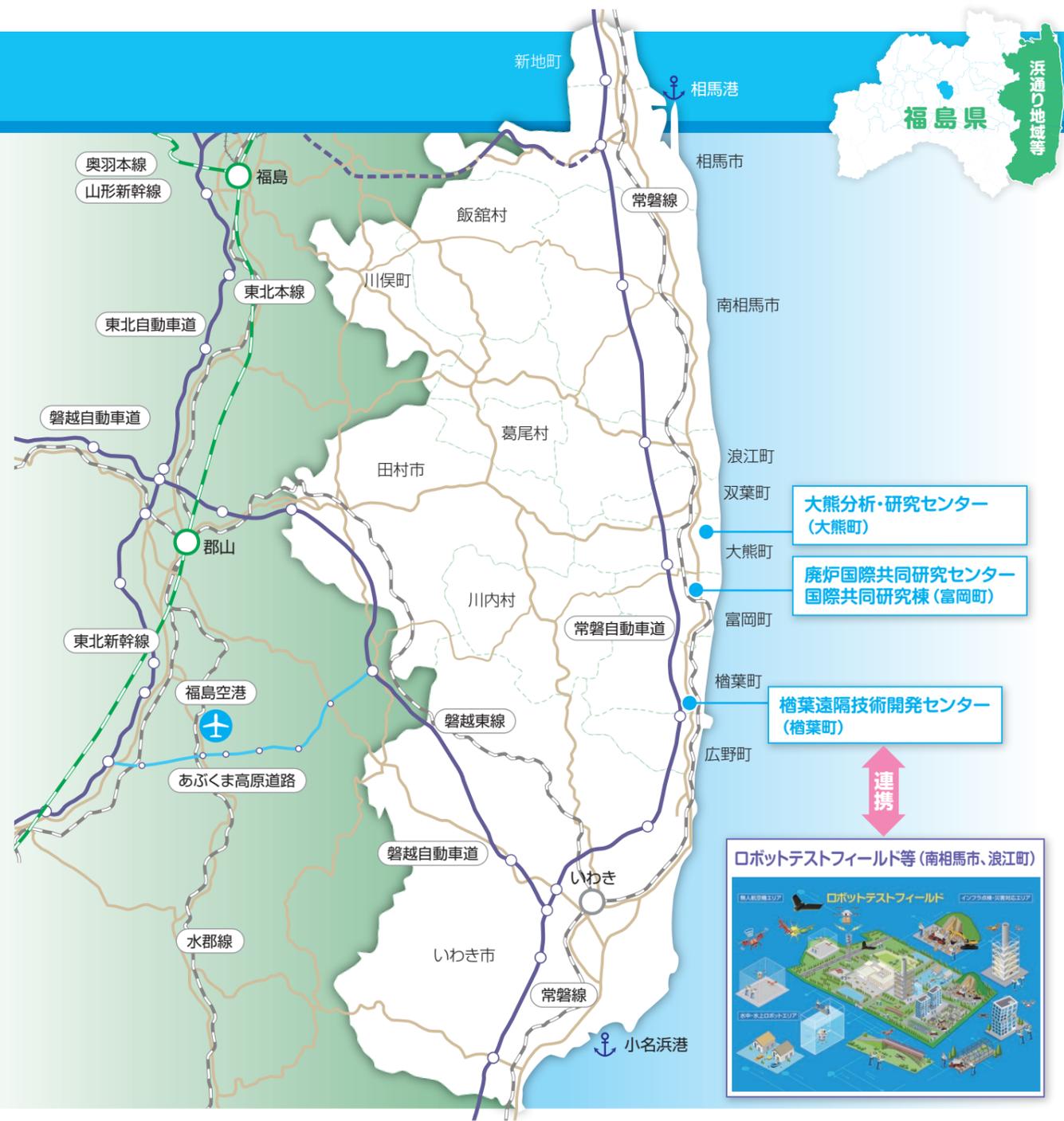
分析作業員居室、事務室等から構成

### ■第1棟（建設中）

低・中線量のがれき類、焼却灰、樹木、水処理二次廃棄物等を分析

### ■第2棟（詳細設計中）

燃料デブリ、高線量のがれき等を分析



## 廃炉国際共同研究センター国際共同研究棟（富岡町）

運用開始予定：平成29年4月



廃炉国際共同研究センター国際共同研究棟は、国内外の大学や研究機関等が廃炉措置に関する研究を行うために共同利用できる施設です。この施設を国際的な研究開発拠点とし、JAEAを中核とした様々な人材が交流するネットワークを形成、産学官による研究開発と育成を一体的に進める体制を構築します。

### ■主な特徴

- 廃炉等の研究開発及び人材育成の拠点
- 東京電力ホールディングス福島第一原子力発電所近郊
- 国内外の大学、研究機関等が廃炉研究のために共同利用できる施設として整備

# ロボット

福島県浜通り地域等において、陸・海・空のロボットの一大拠点としてロボットテストフィールド及び国際産学官共同利用施設(ロボット)を整備し、重点産業であるロボットに関する新技術開発やロボット関連産業の集積及び雇用の創出を図ります。

## ●ロボットテストフィールド及び国際産学官共同利用施設

運用開始予定：平成30年度以降順次運用開始

## ロボットテストフィールド



## ●南相馬市

物流やインフラ点検、災害対応などに使用される陸・海・空の「フィールドロボット」の実証試験、性能評価、操作訓練を行う施設です。

### ■無人航空機エリア

滑走路、緩衝ネット付飛行場、ヘリポートなど

### ■インフラ点検・災害対応エリア

災害や老朽化を模擬したトンネル、橋梁、市街地、プラントなど

### ■水中・水上ロボットエリア

水没市街地、屋内水流付大深度水槽など

## ●浪江町

南相馬市のテストフィールドの滑走路からの長距離の飛行実証を可能にするため、滑走路を配置します。  
(約13kmの飛行実証が可能)



## 国際産学官共同利用施設(ロボット) (南相馬市)

(技術指導を行うハイテクプラザ浜通り分所も入居予定)



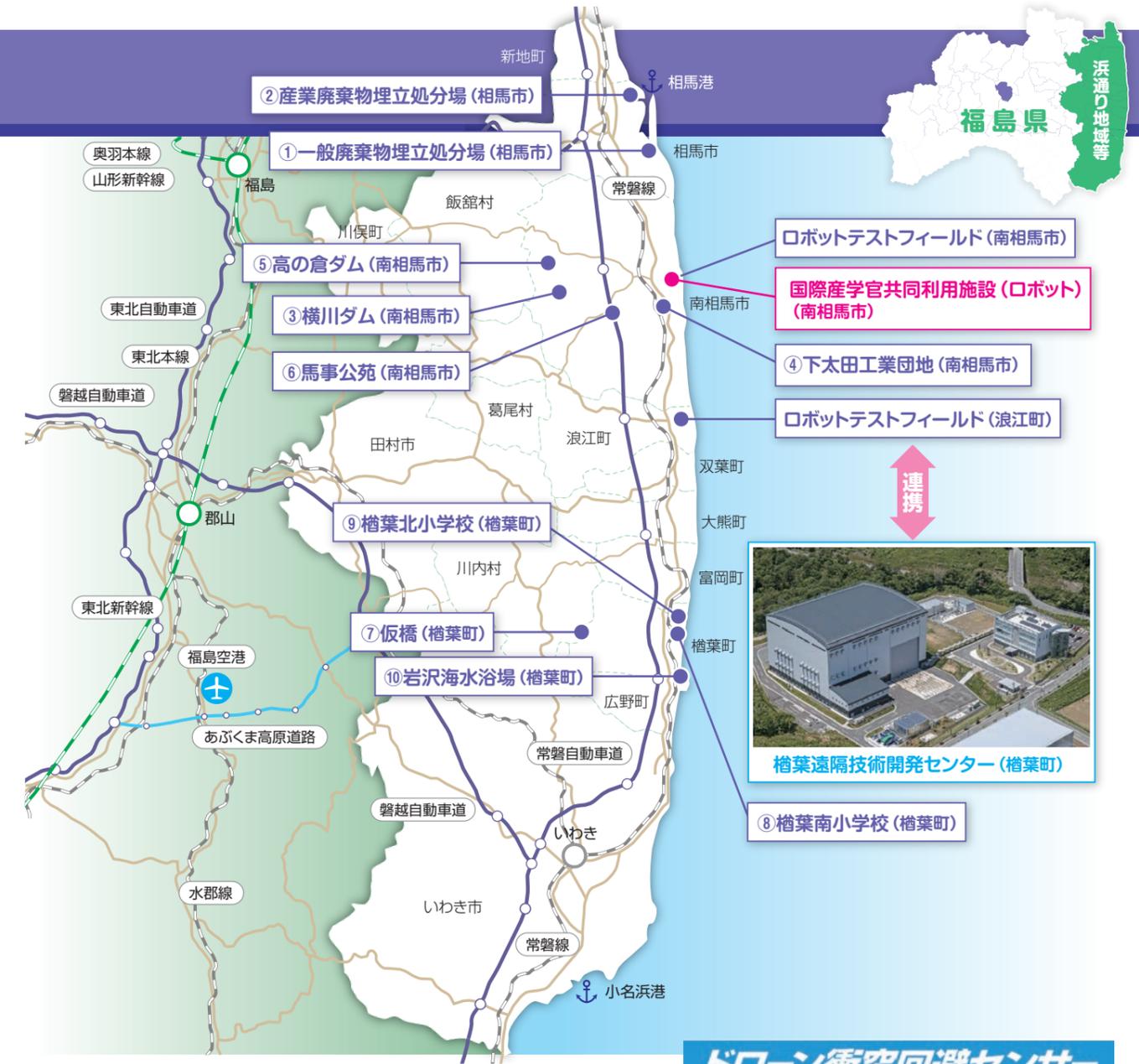
国内外の研究者が集い、ロボットの基礎的・基盤的な研究を行うとともに、地元企業の技術支援、セミナーや研修を始めとした人材育成等を行う施設です。

①試作・基礎的性能試験評価に必要な設備、②製品改良に必要な設備、③研究室・研修室などの設備を設置し、ロボット開発の促進とロボットテストフィールド利用者の支援を担います。

## 福島浜通りロボット実証区域

ロボットやドローンの実用化を支援するため、企業、大学、研究機関等に対して、福島県内の橋梁、トンネル、ダム・河川、山野等オープンスペースを福島県が幹旋し、実証試験や操縦訓練の場として提供します。

### ■指定エリア



## 浜通りロボット実証区域における実証例



# エネルギー

エネルギー関連産業プロジェクトは、浮体式洋上ウインドファーム実証研究や藻類バイオマス等再生可能エネルギー技術の最先端の技術研究、阿武隈山地や避難地域等への再生可能エネルギーの導入、「福島新エネ社会構想」の柱である再生可能エネルギー由来の水素の製造や貯蔵技術開発等を通じた先端的エネルギー産業の集積等のプロジェクトを推進し、原子力災害により失われた浜通り地域の産業基盤や雇用の再構築を図ります。

## 3つの柱と10のプロジェクト

原子力に依存しない「新たなエネルギーの創出」による復興の加速化

### 避難地域・再生可能エネルギー復興支援プロジェクト



「福島新エネ社会構想」関連プロジェクト（※P14に説明）  
避難地域等における復興の柱である再生可能エネルギーの導入拡大を推進するため、国、県、該当市町村、金融機関、電力会社等が協議会を設立し、さらなる再生可能エネルギーの導入を促進します。

- 主な対応策
- 受け入れ枠の拡大
  - 再生可能エネルギー事業者への支援
  - 県・市町村による一体的な推進

### 風力発電拠点形成プロジェクト（陸上・洋上）



阿武隈山地等における風力発電の大量導入や、共同送電線を整備し、「福島新エネ社会構想」実現を目指します。  
世界初となる複数基からなる浮体式洋上風力発電所の本格的な実証を行い、世界をリードする発電事業の実用化を目指します。

### 高効率石炭火力発電（IGCC）プロジェクト（いわき市・広野町）

運用開始予定：平成32年度



高効率石炭火力発電（IGCC）の建設・運用により福島県の経済復興や雇用創出につなげるとともに、本県をクリーンコール（※）技術の発信地として、世界を牽引する拠点の形成を目指します。

※クリーンコール：石炭のクリーンな利用

### 天然ガス（LNG）火力発電プロジェクト（新地町）

運用開始予定：平成32年度

天然ガス火力発電は、石炭・石油による火力発電に比べ、CO<sub>2</sub>排出量が少なく、電源燃料の多様化と電力エネルギーセキュリティの向上が図られるほか、需要動向に応じ出力を調整できる特性を生かした再生可能エネルギーの調整電源としても期待できます。相馬郡新地町にて59万kWのコンバインドサイクル方式発電設備2基で構成される天然ガス（LNG）火力発電所を整備します。

### 天然ガス（LNG）の地域利用促進プロジェクト（新地町）



相馬LNG受入基地の建設を契機として、地域での利用可能性が高まっている天然ガスの利用を促進します。また、熱電供給のエネルギー源に天然ガスを活用した復興まちづくりの構想（LNGタウン構想）についても促進しています。

### 復興まちづくりのためのスマートコミュニティ形成プロジェクト

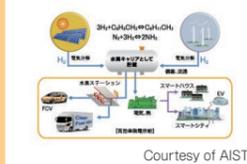
（新地町・相馬市・浪江町・楡葉町）



太陽光、風力、水力、地熱、バイオマスといった福島県の豊富な再生可能エネルギー資源を活用しながら災害時にも強いエネルギー需給体制の確立、再生可能エネルギーの地産地消、エネルギーの高効率利用のため、復興まちづくりと連動した市町村におけるスマートコミュニティの導入を促進していきます。



### 水素によるエネルギー貯蔵・効率的利用プロジェクト



Courtesy of AIST

再生可能エネルギーを地域で有効に活用するための先端的な取組として、水素によるエネルギー貯蔵と、これを活用した地域サービスの提供が考えられます。また、東京オリンピック・パラリンピックにおける取組の一つに水素エネルギーの供給を行う実証事業も検討されており、再生可能エネルギーから生み出した水素の活用を検討しています。

### バイオマスプロジェクト（メタン発酵・藻類）※藻類のみ対象 藻類バイオマス・エネルギー大規模実証施設（南相馬市）



**メタン発酵**：天候に左右されず安定的かつ電力需要に合わせて供給調整可能な電源であるバイオマス発電（生ごみをメタン発酵させ製造したメタンガスを燃料にした発電）の導入を支援しています。  
**藻類**：次世代のエネルギーとして期待される藻類を用いたバイオマス燃料は、浜通りの津波被災地を活用した新たな再生可能エネルギーとしての可能性を有しており、研究及び実用化に向けた支援を行っています。

### 小水力発電導入拡大プロジェクト



既存の水利施設（ダムや用水路）等への小水力発電の導入を推進することにより、地域資源の有効活用や売電収益を活用した施設の維持管理費等の削減を図ります。

地域で生産した「エネルギーの地産地消」  
関連産業の集積

### 浜通りのポテンシャルを生かした産業の集積

浜通り地域等で興りつつあるエネルギー関連プロジェクト等先端技術を核に関連産業を集積することで、震災と原子力災害により失われた産業基盤の再構築を図ります。

# 農林水産

農林水産業関連プロジェクトでは、東日本大震災と原子力災害の深刻な被害を受けた地域において、ロボット技術や環境制御システムなどの先端技術等を取り入れた先進的な農林水産業を全国に先駆けて実践することにより、日本の農林水産業のフロンティアを目指します。

## 先端技術を取り入れ日本農林水産業のフロンティアを目指す8つのプロジェクト

### 水稲超省力・大規模生産プロジェクト、畑作物大規模生産プロジェクト



・避難の長期化による農地の荒廃  
・担い手不足

先端技術を活用



大規模生産を実現

#### ● 水稲超省力・大規模生産プロジェクト

沿岸部の農地約5,400haが津波による浸水被害を受けたことから、震災以降、農地や農業用施設の復旧とほ場の区画整理に取り組んでいるところであり、ほ場の大区画化など、機能向上が図られた水田において、ICTやロボット技術を活用した水稲の超省力・大規模生産の実証試験等を行うことで、生産コストの低減と安定した収益が確保できる新しい農業のモデルを構築します。

#### ● 畑作物大規模生産プロジェクト

いわゆる露地・畑作物栽培を再生するため、ロボット技術やセンシング技術を活用した安全かつ効率的な生産体系の実証試験等を行うことで、新たな土地利用型農業のモデルを構築します。

#### 省力化

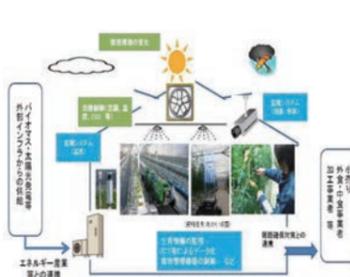


#### 高品質・多収



病害虫の防除や生育診断、病害発生予測が可能

### 環境制御型施設園芸構築プロジェクト



放射性物質の影響を受けにくい施設園芸による安全・安心な農産物の生産を推進するとともに、ICTを活用した温度、湿度等の生育条件の管理や省力化を図ることで、先駆的な農業モデルを構築します。

### フラワー・コースト創造プロジェクト



避難地域においては、風評の影響が少ない作物である「花き」等食用以外の品目への転換を進めるとともに、「見せる農業」としての花き振興を図ることで、観光分野と連携した新たな農業モデルを構築します。

### 阿武隈高原畜産業クラスタープロジェクト



原発事故に伴う家畜の避難や処分等により、飼育頭数が大幅に減少している現状を踏まえ、畜産業の復興を確実なものにするため、先端技術を活用した大規模繁殖農場共同経営のモデルを構築します。



## 林業



### 県産材の新たな需要創出プロジェクト

集成材・CLT等の新技術や木質バイオマスの利用は、県産材の需要創出に期待されており、本県林業の復興に大きく貢献するものです。新技術の普及を促進するため、木材の安全性に配慮しつつ、国、県の重要施策を本県域に集中的に投入し、集成材・CLTをはじめとした新技術と木質バイオマスが牽引する林業の復興・再生を推進します。

■CLTとは？ Cross Laminated Timberのことであり、板の層を各層で互いに繊維方向が直交するように積層接着した木質系材料

## 水産業



### 水産研究拠点整備プロジェクト

水産種苗研究・生産施設  
運用開始予定：平成30年度

福島県の水産業は、本格操業の再開に向けた海洋における放射性物質のモニタリングはもとより、放射性物質が海産物へ与える影響の解明等の課題に係る万全な方策や操業自粛により増加した水産資源の持続的・効率的利用方策について徹底的に研究・検討する必要があります。そのため、水産業に関する研究・情報発信を行う拠点を整備し、「放射性物質に対する安全・安心の確保」「水産資源の持続的利用」「魅力ある産業への転換のための技術革新」を実現していきます。

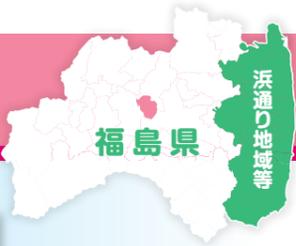
## 共通



### 作業支援プロジェクト

長期の避難により担い手の不足が深刻な問題となっている避難地域において、帰還して農林漁業を再開する農林漁業者は、高齢化や重労働による腰や膝への負担など、体力的な理由により断念することが懸念されるため、作業の軽労化、省力化できる農林漁業用アシストスーツなどについて民間企業等と連携しながら開発を進めていきます。

# 国際産学連携／人材育成



ロボットやエネルギー産業など、福島イノベーション・コースト構想を支える優秀な技術者、研究者のほか、地方創生・復興を担う人材を、高校・大学・研究機関が連携して育成していきます。  
また、福島にしかない複合災害で得られた経験や教訓を、防災・減災の政策立案や、人材育成の取組に生かしていきます。

人材育成・教育



## ふたば未来学園高等学校(広野町)【未来創造型教育】

アクティブ・ラーニングを教育活動全体で展開して、地域や社会の変革者たる人材を育成しています。ふるさと創造学や未来創造探究、海外研修に取り組み、社会へ未来へ貢献するグローバル・リーダーを育てています。



## 小高産業技術高等学校(南相馬市) 平成29年4月開校

平成29年4月、小高商業、小高工業高等学校が統合し、小高産業技術高等学校が南相馬市小高区に開校します。

- 地域の復興に寄与するとともに、福島イノベーション・コースト構想を実現する専門的な職業人を育てます。
- 地域連携教育、防災教育、リスク管理教育、先端技術教育に取り組みとともに、相双の地域資源を見直し、活用する教育を推進します。



## 福島工業高等専門学校(いわき市)

原子力に依存しないエネルギーと安全・安心な社会を目指すべく、再生可能エネルギー、原子力安全、防災・減災に関するカリキュラムの創設や他機関との連携による研究・地域復興事業を実施しています。



## テクノアカデミー浜(南相馬市)

- 福島イノベーション・コースト構想に対応した職業訓練  
福島イノベーション・コースト構想におけるエネルギーやロボット関連産業において、地元企業が参入・対応していくために必要と考えられる基盤技術を身につけた人材を育成します。

## 双葉・南相馬教育復興

### ●双葉・南相馬教育復興推進事業

避難による人口減少が著しい地域の小・中・高校において、地域の課題解決または福島イノベーション・コースト構想に寄与し、地方創生を担う人材の育成等を行います。



## 福島大学(福島市)

被災者を支援するための組織を立ち上げるとともに、今後の福島県を支える人材を育成するためのプログラムを開発しています。

- 活動内容 ①うつくしまふくしま未来支援センター：被災者・被災地域の復旧・復興の支援、農地・農産物の汚染状況や最適な農法の調査、商工業者への再建支援、被災地域の子どもたちへの学習支援の取組など、多岐にわたる支援活動を展開
- ②地域産業復興プログラム(ふくしま未来食・農教育プログラム)：食と農の人材育成を目指して、大学院経済学研究科・地域経営経済コースの中に「地域産業復興プログラム(ふくしま未来食・農教育プログラム)」を開発



## 会津大学(復興支援センター)(会津若松市)

県内企業と連携し、情報通信技術を核とした災害対策等ロボットの開発を行うとともに、県内企業の事業化支援や人材育成に取り組んでいます。(産学ロボット技術開発支援事業)

- 活動内容 ①複数の陸上、空中ロボットがクラウド連携等により複合体としての機能を実現する災害対策等ロボットの開発
- ②ロボット開発の高品質化、コスト削減、迅速化のため、ロボットソフトウェアの標準化、互換性向上を図るとともに、データベース化された「RTCライブラリふくしま」を公開
- ③ソフトウェア視点のロボット開発を担う人材育成のため、RTミドルウェア講習会の開催やe-ラーニング及び教材用ロボットの作成



## 日本大学工学部(郡山市)

地域イノベーション戦略支援プログラムの採択を受け、地中熱利用技術の開発に取り組んでいます。

- 活動内容 ①災害に強いエネルギー自立・自然共生型住環境の研究：浅部地中熱を冷暖房に活用した、災害に強い省エネルギー住環境システムの開発
- ②地域特性を活かして地中熱利用の研究：浅部地中熱を活用した、熱交換井の共同利用のためのシステム技術の開発、地中熱ポテンシャルマップの作成



テクノアカデミー浜(南相馬市)

国際産学官共同利用施設(ロボット)(南相馬市)※説明はP.5に記載

小高産業技術高等学校(南相馬市)

情報発信(アーカイブ)拠点(双葉町)

廃炉国際共同研究センター国際共同研究棟(富岡町)※説明はP.4に記載

ふたば未来学園高等学校(広野町)

福島工業高等専門学校(いわき市)

## ACF(アカデミア・コンソーシアムふくしま)参加教育機関

- 会津大学
- いわき明星大学
- 奥羽大学
- 郡山女子大学
- 日本大学工学部
- 東日本国際大学
- 福島学院大学
- 福島県立医科大学
- 福島大学
- 放送大学福島学習センター
- 会津大学短期大学部
- いわき短期大学
- 郡山女子大学短期大学部
- 校の聖母短期大学
- 福島学院大学短期大学部
- 福島工業高等専門学校
- テクノアカデミー郡山 職業能力開発短期大学校
- テクノアカデミー会津 職業能力開発短期大学校
- テクノアカデミー浜 職業能力開発短期大学校

## ACF(アカデミア・コンソーシアムふくしま)

福島県の高等教育機関が、それぞれの特徴を有したまま、全体として豊かな教育機会を若者たちに提供していくために創設された連携組織です。(正会員として19の教育機関が所属)

東北大学(葛尾村) 中山間地域の農業振興のための新ICT有機農業の実証試験を実施しています。

東京大学(飯館村) NPO法人ふくしま再生の会とともに活動しています。

- 活動内容 ①水稲栽培実験やハウス栽培等の農業支援 ②定点観測、車載測定等による放射線量の情報提供

慶應義塾大学(田村市) ドローンの利活用に関する連携協力協定を締結し、ドローン特別講座(全6回)を開講しています。

- 活動内容 ①田村市と慶應義塾大学が相互発展に向けドローンの利活用に関する包括的な連携協力体制を構築
- ②県立船引高校の生徒に対し、ドローンの可能性、安全知識の付与及びドローン操縦技術の取得を目的とした特別講座(全6回)を開講

近畿大学(川俣町) オール近大プロジェクトとして様々な活動を実施しています。

- 活動内容 ①除染廃棄物仮置場から中間貯蔵施設への輸送問題についてバイオコークス技術によって解決する方法を提案
- ②放射線量測定用ガラスバッチによる放射線量測定 ③町の特産品になり得る農作物の試験栽培の実施

## 産業技術総合研究所福島再生可能エネルギー研究所(FREA)(郡山市)

これからの福島県を担う高校生等に対し、再生可能エネルギー関連技術を学ぶ講座等を開催しています。

- 活動内容 ①再生可能エネルギートップランナー講座：再生可能エネルギー関連技術の研究の第一線で活躍している産業技術総合研究所職員による出前講座の開催
- ②福島再生可能エネルギー研究所一日入所体験：福島再生可能エネルギー研究所の見学及び産業技術総合研究所職員による技術の紹介

## 情報発信(アーカイブ)拠点(双葉町)

情報発信(アーカイブ)拠点は、人類がこれまで経験したことのない未曾有の複合災害の実態と復興への取組を、教訓として国や世代を超えて伝えていく施設です。

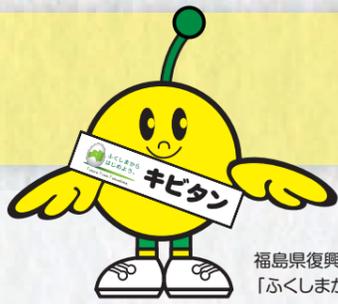
情報発信(アーカイブ)拠点の近くには双葉・浪江両町にまたがる復興祈念公園が検討されています。

## 他の検討中の拠点

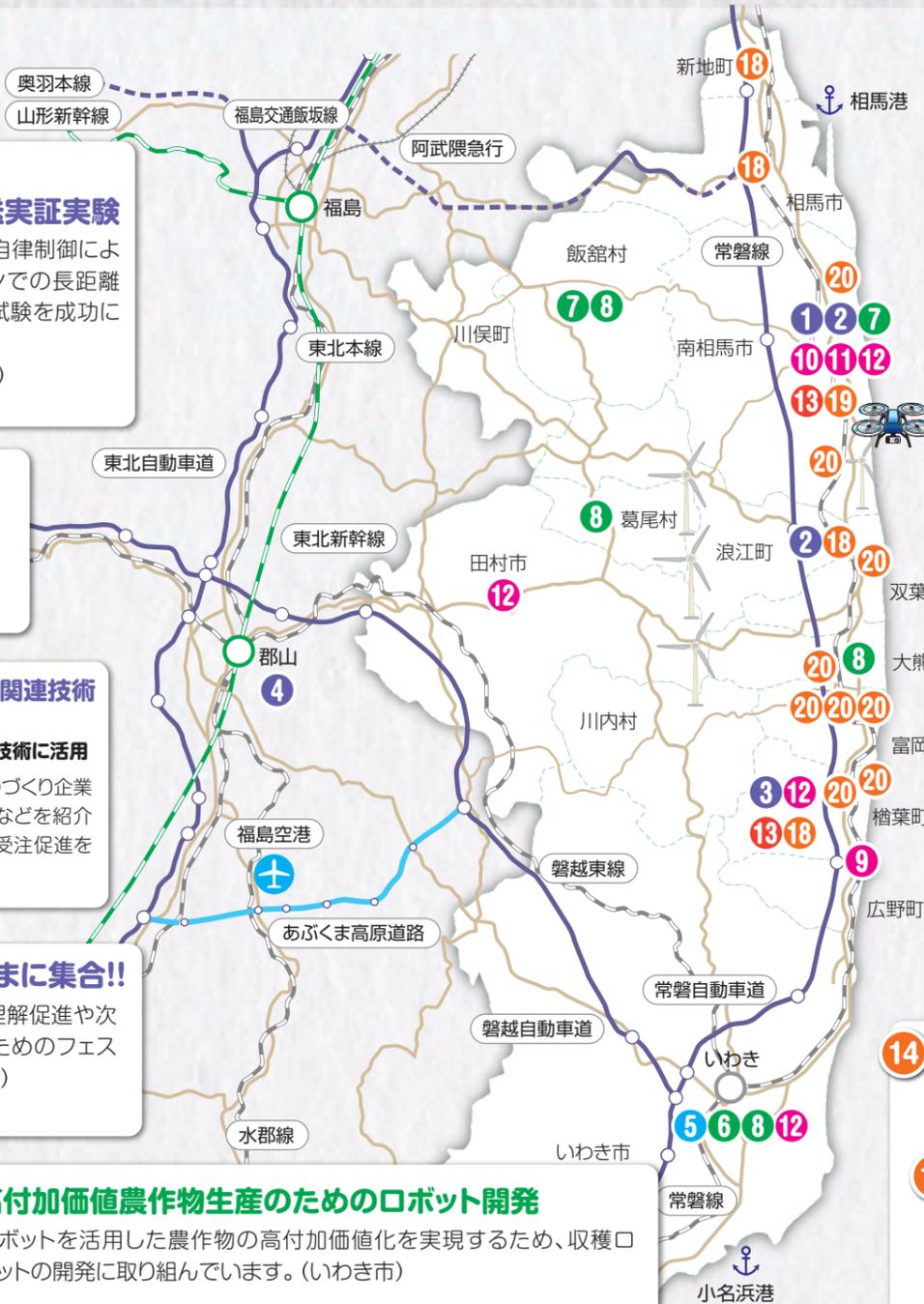
産学官共同研究室(放射線の知識が必要な研究分野を対象)、大学教育拠点、技術者研修拠点(廃炉人材育成、防災研修等)

県内大学の活動

# 「福島イノベーション・コースト構想」 取組マップ



福島復興シンボルキャラクター  
「ふくしまからはじめよう。キビタン」



**1 世界初!!完全自律制御によるドローンの長距離配送実証実験**  
 福島浜通りロボット実証区域の取組で世界で初めて完全自律制御による回転翼ドローンでの長距離荷物配送の飛行試験を成功に導きました。(南相馬市の海岸)

**2 ワールドロボットサミット開催**  
 国際的なロボットの競技会である「ワールドロボットサミット」が南相馬市及び浪江町に整備を進めている「ロボットテストフィールド」にて、2020年に開催されます。

**3 福島県内企業廃炉・除染ロボット関連技術展示実演会**  
 地元ものづくり企業の技術を廃炉・除染技術に活用  
 廃炉・除染に携わる方々に、福島県内ものづくり企業の特徴ある技術や製品、意欲的な取組などを紹介し、地元企業の廃炉・除染分野における受注促進を図ります。(楡葉町)

**4 最新ロボットがふくしまに集合!!**  
 ロボット関連分野・産業への理解促進や次世代の人材育成の場とするためのフェスタを開催しています。(郡山市)

**5 福島第一原子力発電所の廃止措置及び福島県内の環境回復に向けた研究開発**  
 JAEA福島研究開発部門では福島第一原子力発電所の廃止措置及び福島県内の環境回復に向けた研究開発等の活動をしており、毎年、福島研究開発部門成果報告会を行っています。(いわき市)

**6 高付加価値農作物生産のためのロボット開発**  
 ロボットを活用した農作物の高付加価値化を実現するため、収穫ロボットの開発に取り組んでいます。(いわき市)

**7 営農再開推進のためのロボット開発**  
 先端技術の導入で農業の復興を目指そうと、無人で走行する「ロボットトラクタ」の開発を進めており、南相馬市にて試作機を公開しました。(南相馬市)

**8 環境制御型園芸施設の整備**  
 先端技術を取り入れた施設園芸の導入を促進するため、トマトやいちご、花き等の栽培施設を整備しています。(いわき市、大熊町、飯館村、葛尾村等)

**9 Jヴィレッジ再始動!!**  
 Jヴィレッジは2018年夏の一部再開、2019年4月の全面営業再開を目指します。2020年の東京五輪ではサッカー男女日本代表の合宿地としてJヴィレッジが選ばれました。(楡葉町、広野町)

**10 初等・中等教育におけるロボット技術教育推進**  
 ソフトバンクグループから無償貸与されたペッパーを南相馬市内の全小中学校に配置し、効果的なプログラミング教育を実施しています。「ロボットのまち南相馬」から世界で活躍する人材を輩出を目指します。(南相馬市)

**11 楽天株式会社と包括連携協定**  
 ドローンなどを活用した物流システムの構築やふるさと納税の推進、市内の事業者のIT利活用の促進など、楽天株式会社と連携を図り、地域社会の活性化と住民サービスの向上を目指します。(南相馬市)

**12 福島の魅力を発信!!マジカル福島!!**  
 アニメ、映画や音楽、アートなど多彩なイベントを福島県内各地で開催しています。さらに観光スポットやグルメなど福島ならではの文化・伝統も体感できます。(いわき市、田村市、南相馬市、楡葉町)

**13 ふくしまみらいビジネス交流会**  
 “地元企業”と“新たなプロジェクトに取り組む企業”が浜通りエリアでの展望やビジネス機会の創出に関する交流会を行いました。(南相馬市、楡葉町、他順次開催予定)

**16 浮体式洋上風力発電所の実証事業**  
 世界初となる複数基による浮体式洋上風力発電所の実証事業を行い、世界をリードする発電技術の実用化を目指します。(双葉郡沖)

**20 避難地域における再生可能エネルギー事業**  
 国や県、地元市町村、電力会社等で設立した「福島県再生可能エネルギー復興推進協議会」により、避難解除区域等において、原発電送電線を活用した再生可能エネルギー発電事業を推進し、地域の復興加速化を図ります。協議会と連携の事業計画 9か所 設備容量 約125MW

**14 福島新エネ社会構想**  
 福島県を未来の新エネ社会を先取りするモデル創出拠点とするため、「再エネの導入拡大」、「水素社会実現のモデル構築」、「スマートコミュニティの構築」を目指します。

**15 再生可能エネルギー導入促進(太陽光、風力等)**  
 再生可能エネルギー発電設備の導入支援及び当該設備に付帯する蓄電池・送電線の導入を支援しています。(浜通り地域等全域)

**17 再エネ由来の水素を活用した実証事業**  
 水素社会実現のモデル構築のため、水素製造技術の開発・実証に取り組んでいます。(福島県全域)

**18 スマートコミュニティの構築**  
 太陽光、水素エネルギー、天然ガス、蓄電池等を活用し、エネルギーシステムや地域コミュニティの構築を目指します。(新地町、相馬市、浪江町、楡葉町)

**19 藻類バイオマス生産開発拠点**  
 土着藻類を用いたバイオ燃料生産について実用化を目指し、バイオマス燃料生産実証事業に取り組んでいます。(南相馬市)



Courtesy of AIST



スマートコミュニティ[イメージ]